

2026年度 理科シラバス

教科	理科	科目	生物	単位数	3	学年	3
学科 ・ レーン	普通科 特進（理系）、看護医療進学コース						
教科 書	数研 生物 ※2年次の教科書を引き続き使用		副 教 材	数研出版 リードα 生物基礎＋生物 ※2年次の副教材を引き続き使用 数研出版 大学入試共通テスト対策チェック&演習生物（特進コースのみ）			
科目 の 概 要	「生物基礎」との関連を図りながら、生物や生物現象を更に広範に取り扱い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。また、観察、実験を通して、生物学的に探究する方法を習得する。 適宜、共通テストを中心とした入試問題の演習を行い、問題を解く力を付けていく。			評価 の 観 点	知識・技能…知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているか。 思考・判断・表現…習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。主体的に学習に取り組む態度…知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自身の学習状況についての振り返りや学習方法を試行錯誤するなどの工夫ができているか。		
				評価 方 法	定期考査、小テストから知識・技能を、実験レポート、提出課題、グループワークなどから思考・判断・表現を、授業態度や提出状況などから主体的に学習に取り組む態度を評価し、さらにそれらを総合的に評価する。		
				学習 方 法	授業内で理解できなかった点はすぐに質問し、解決する。 復習を怠らず、繰り返し学習することで、知識を定着させる。		
授 業 内 容	1学期 第3編 遺伝情報の発現と発生 第4章 遺伝情報の発現と発生 第4編 生物の環境応答 第5章 動物の反応と行動 2学期 第4編 生物の環境応答 第6章 植物の環境応答 第5編 生態と環境 第7章 生物群集と生態系 3学期 問題演習			備 考			

2026年度 理科シラバス

教科	理科	科目	生物	単位数	2	学年	3
学科 ・ レーン	普通科 総合キャリアコース（共通）						
教科書	数研 改訂版 生物 ※2年次の教科書を引き続き使用		副教材	数研出版 リードLight ノート 生物 ※2年次の副教材を引き続き使用			
科目の概要	「生物基礎」との関連を図りながら、生物や生物現象を更に広範に取り扱い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。また、観察、実験を通して、生物学的に探究する方法を習得する。			評価の観点	知識・技能…知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているか。 思考・判断・表現…習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。主体的に学習に取り組む態度…知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自身の学習状況についての振り返りや学習方法を試行錯誤するなどの工夫ができているか。		
				評価方法	定期考査、小テストから知識・技能を、実験レポート、提出課題、グループワークなどから思考・判断・表現を、授業態度や提出状況などから主体的に学習に取り組む態度を評価し、さらにそれらを総合的に評価する。		
				学習方法	授業内で理解できなかった点はすぐに質問し、解決する。 復習を怠らず、繰り返し学習することで、知識を定着させる。		
授業内容	1 学期 第4編 生物の環境応答 第5章 動物の反応と行動 2 学期 第6章 植物の環境応答 第5編 生態と環境 第7章 生物群集と生態系 3 学期 第7章 生物群集と生態系			備考			

教科	理科	科目	化学	単位数	3	学年	3
学科 ・ レーン	普通科 特進コース (理系)						
教科書	東京書籍 化学 Vol.1 理論編 東京書籍 化学 Vol.2 物質編 ※2年次の教科書を引き続き使用		副教材	東京書籍 ニューステップアップ 化学 ※2年次の副教材を引き続き使用			
科目の概要	2学年の「化学」の学習に引き続き、化学平衡から、無機化合物、有機化合物、高分子化合物を扱い、日常生活や社会にこれらの物質の性質がどのように活かされているかを理解する。 1. 化学平衡を学び、化学の反応が現実にはダイナミックに進行していることを理解し、化学的な見方を身につける。 2. 無機物質の性質や反応を探究し、元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解するとともに、通常の生活の中に応用されていることを理解する。 3. 有機化合物の性質や反応を探究し、有機化合物の分類と特徴を理解するとともに、日常生活や社会と関連づけて考察する。			評価の観点	知識・技能…知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているか。 思考・判断・表現…習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。主体的に学習に取り組む態度…知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自身の学習状況についての振り返りや学習方法を試行錯誤するなどの工夫ができているか。		
				評価方法	定期考査、小テストから知識・技能を、実験レポート、提出課題、グループワークなどから思考・判断・表現を、授業態度や提出状況などから主体的に学習に取り組む態度を評価し、さらにそれらを総合的に評価する。		
				学習方法	理科の勉強で一番必要なことは、様々な現象に興味を持ち、探求し、理解していくこと。自分の手と頭を使い探求するとともに、クラスのメンバーとの討議を通して、様々な観点から理解を深めること。また自宅での学習も大切である。授業中に分からない事があれば、後回しにせず、その場で聞くか、授業終了後にすぐに担当の先生に聞くようにする。		
授業内容	1学期 第2編 第4章化学平衡 第3編 無機物質 2学期 第4編 有機化合物 3学期 第5編 高分子化合物			備考			

2026年度 理科シラバス

教科	理科	科目	化学	単位数	3	学年	3
学科 ・ レーン	普通科 看護医療進学コース						
教科書	東京書籍 化学 Vol.1 理論編 東京書籍 化学 Vol.2 物質編 ※2年次の教科書を引き続き使用		副教材	東京書籍 ニューステップアップ 化学 ※2年次の副教材を引き続き使用			
科目の概要	2学年の「化学」の学習に引き続き、無機化合物、有機化合物、高分子化合物を扱い、日常生活や社会にこれらの物質の性質がどのように活かされているかを理解する。 1.無機物質の性質や反応を探究し、元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解するとともに、通常の生活の中に応用されていることを理解する。 2.有機化合物・高分子化合物の性質や反応を探究し、有機化合物の分類と特徴を理解するとともに、日常生活や社会と関連づけて考察する。			評価の観点	知識・技能…知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているか。 思考・判断・表現…習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。 主体的に学習に取り組む態度…知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自身の学習状況についての振り返りや学習方法を試行錯誤するなどの工夫ができているか。		
				評価方法	定期考査、小テストから知識・技能を、実験レポート、提出課題、グループワークなどから思考・判断・表現を、授業態度や提出状況などから主体的に学習に取り組む態度を評価し、それらを総合的に評価する。		
授業内容	1学期 第3編 無機物質 第4編 有機化合物 2学期 第4編 有機化合物 第5編 高分子化合物 3学期 第5編 高分子化合物			学習方法	身の回りの事象や、それに対する疑問など、生活に関連した事柄を学ぶ。また、授業内に多く演習を取り入れ、問題になれる。 実験も適宜行い、器具の扱い方、レポートの書き方などを学ぶ。 タブレットでの学習や、グループワークなど、積極的に取り入れる。		
				備考			

2026年度 理科シラバス

教科	理科	科目	(学) 理科特講	単位数	2	学年	3
学科 ・ レーン	普通科 特進コース (文系)						
教科 書	数研出版 改訂版 化学基礎 数研出版 改訂版 生物基礎 ※1年次の教科書を引き続き使用する。		副 教 材	数研出版 リードα 化学基礎+化学 数研出版 リードα 生物基礎+生物 ※1年次の副教材を引き続き使用 数研出版 チェック&演習 化学基礎 数研出版 チェック&演習 生物基礎			
科 目 の 概 要	化学基礎・生物基礎の内容について、それぞれ単元別に理解度を確認するテストや模擬試験問題などを用い、大学入試共通テスト問題を解く力を育成する。			評 価 の 観 点	知識・技能…知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているか。 思考・判断・表現…習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。主体的に学習に取り組む態度…知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自身の学習状況についての振り返りや学習方法を試行錯誤するなどの工夫ができているか。		
				評 価 方 法	小テストから知識・技能を、実験レポート、提出課題、グループワークなどから思考・判断・表現を、授業態度や提出状況などから主体的に学習に取り組む態度を評価し、さらにそれらを総合的に評価する。		
授 業 内 容	化学基礎・生物基礎の学習内容について、1学期は単元別の演習問題を解き、理解度の確認を行う。必要に応じて、教科書や問題集を用いて、補足的に復習授業を実施し、理解力を深める。2学期以降は、大学入試共通テストの演習問題や過去問題を解き、総合的に入試問題を解く力を養う。			学 習 方 法	授業内で理解できなかった点はすぐに質問し、解決する。 復習を怠らず、繰り返し学習することで、知識を定着させる。 実験については積極的に参加し、経験することで、知識を得るようにする。		
				備 考			